スポーツ庁再委託事業

令和６年度 幼児期からの運動習慣形成プロジェクト

（幼児期からの運動遊び普及事業）

事業成果報告書

令和７年３月５日

神奈川県スポーツ課・保健体育課

令和６年度 幼児期からの運動習慣形成プロジェクト
（幼児期からの運動遊び普及事業）

事業成果報告書

目次

１．事業の趣旨・目的

２．事業の実施体制

３．事業の内容

４．事業の成果
(1)評価指標および目標

(2)結果と考察

5. ３年間の事業を通じての成果と今後の課題

6. 今後の取組予定

１．事業の趣旨・目的

神奈川県では、令和４年度及び令和５年度と「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（幼児期からの運動遊び普及事業）」の採択を受け、県スポーツ課と県教育委員会保健体育課が連携して取組を進めてきた。

令和６年度においても「子どもが変わると大人も変わる」という視点で、幼児期から児童期における子どもの適切な運動習慣形成のための取組を継続・発展させると共に、同時に、スポーツ課と保健体育課が連携・協働し、幼児期から児童期までの保護者等を対象にした「大人が変わると子どもが変わる」ための取組のモデルを検討することとした。

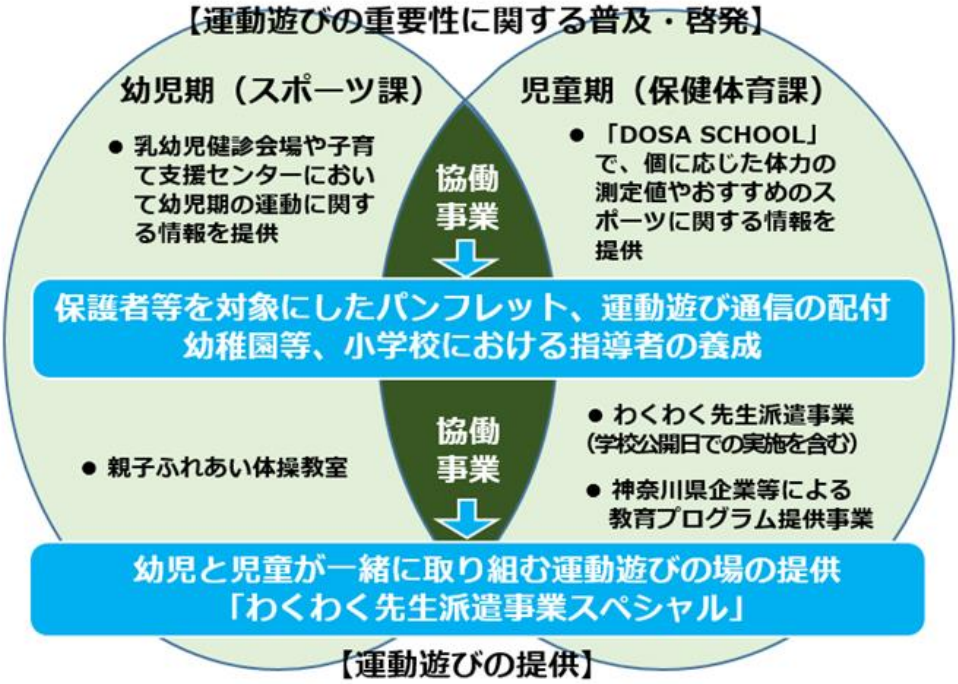
具体的な内容は次の通りである。

(1)　幼児期において、主に幼稚園や保育園、子育て支援センター等と連携し、家庭や地域が一体となって、幼児期から積極的に遊びや運動に取り組む態度を育成し、運動習慣の形成を行う。

(2)　児童期において、主に県域の小学校等と連携し、子どもの運動遊びの重要性に関する普及・啓発及び「わくわく先生派遣事業」による運動遊びの提供を実施する。

(3)　次年度以降、本事業の内容を本県において継続して実施できるよう、事業の効果の確実な検証及び本県の実態に応じた継続可能な事業モデルを検討する。

２．事業の実施体制図



３．事業の内容

保護者等を対象とした子供の運動遊びの重要性に関する普及・啓発

【幼児期及び児童期における協働事業】

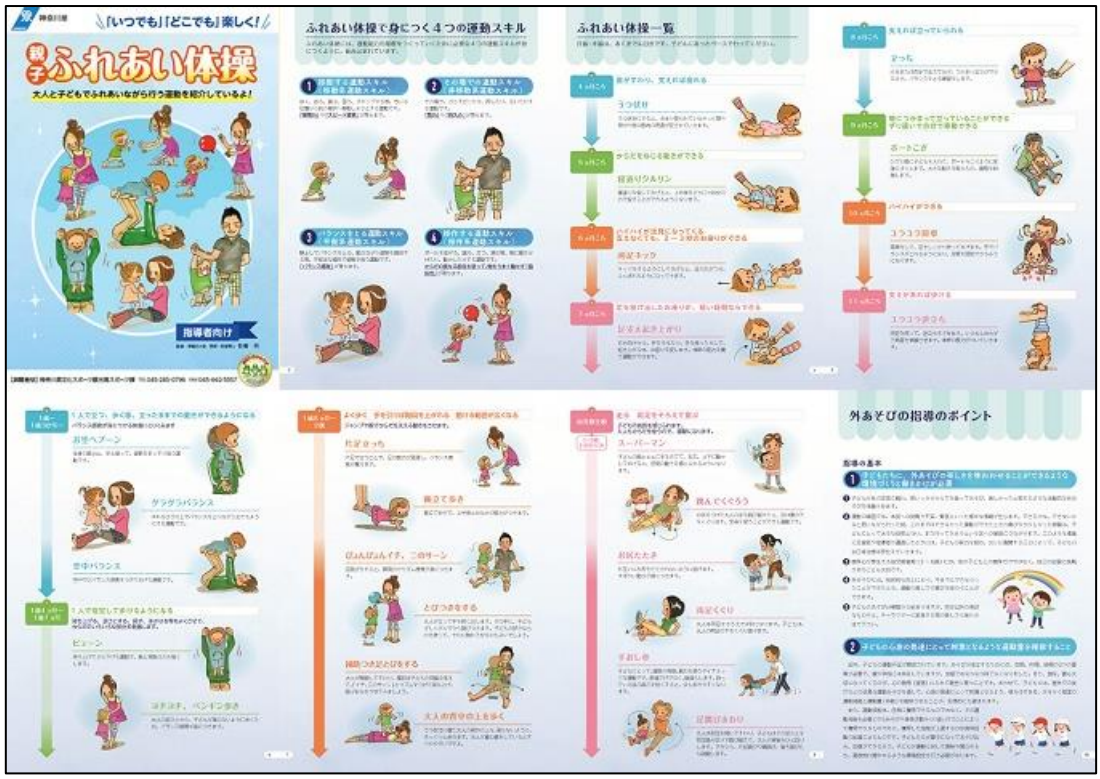
(1)　運動遊びの意義や例を紹介するパンフレット、運動遊び通信の作成・配付

幼児期では、「親子ふれあい体操パンフレット（指導者向け）」及び「親子ふれあい体操パンフレット（保護者向け）」を作成した。小学校へ入学する６歳までを対象とし、児童期に向けて必要な運動能力が身に付くことを目指した。

指導者向けでは、運動能力の基礎をつくっていくために必要な運動スキルや、それらを身に付けるための年齢別運動遊びの紹介、運動指導時のポイントや注意点などを記載した。

保護者向けでは、運動遊びの重要性や、年齢ごとの発達段階を説明し、各年齢において家庭でもできる運動遊びを記載した。

なお、パンフレットの監修は早稲田大学人間科学学術院 前橋 明教授にお願いした。



親子ふれあい体操パンフレット（指導者向け）　一部抜粋

親子ふれあい体操パンフレット（保護者向け）　一部抜粋

児童期では、運動遊び通信（運動遊びブック・スポーツクロスワード）を作成した。運動遊びブックは、蛇腹折りにすることで児童が手に取って持ち歩くことができるデザインとし、スポーツクロスワードには、令和６年７月に実施されたパリオリンピックの種目を取り上げて作成した。運動遊び通信（運動遊びブック・スポーツクロスワード）は、わくわく先生派遣事業の実施校において、児童を通して各家庭に配付をした。

また、運動遊び通信（運動遊びブック・スポーツクロスワード）を、下記の保健体育課のホームページに掲載し、県域の市町村教育委員会へ周知をした。

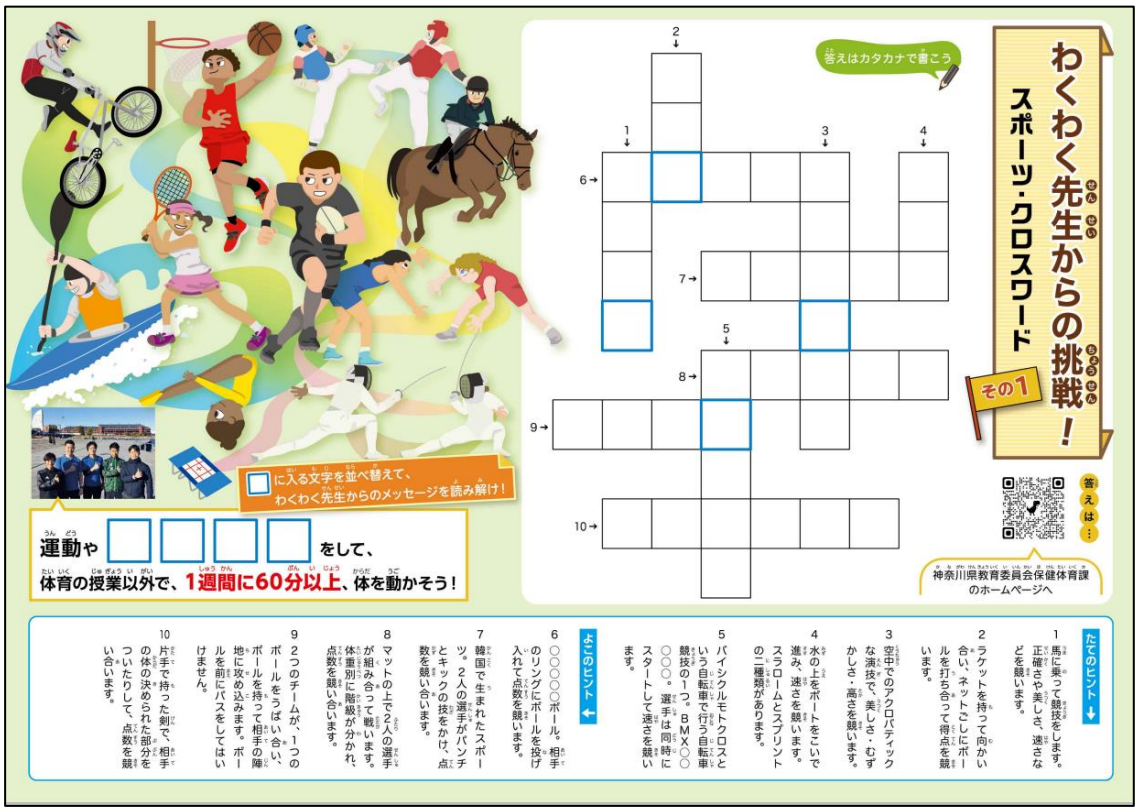
神奈川県教育委員会保健体育課ホームページ

運動遊びの紹介「わくわく先生派遣事業」

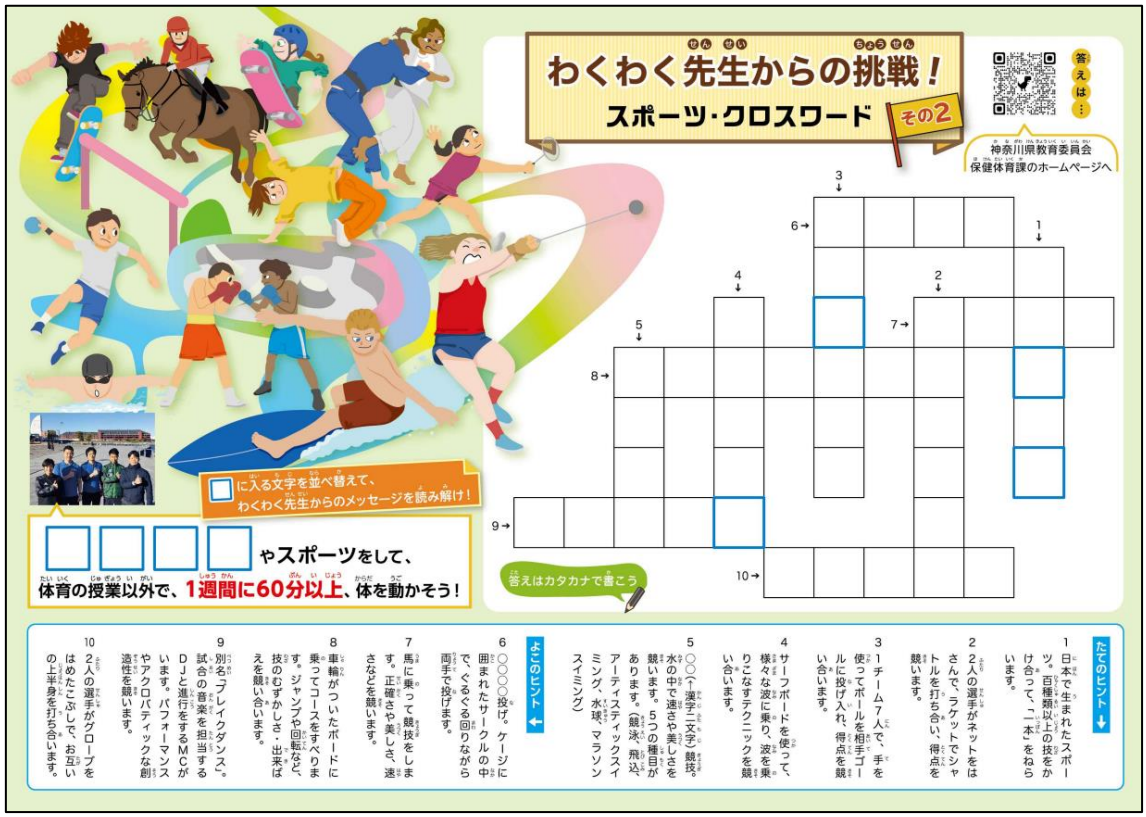
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cy3/gkt/undouasobi-wakuwaku.html

（運動遊びブック　その１）

（運動遊びブック　その２）



（スポーツクロスワード　その１）



（スポーツクロスワード　その２）

(2)　幼稚園等、小学校における運動遊び指導者育成の取組

幼児期では、作成した指導者向けパンフレットを運動指導者派遣事業（指導者向け講習会）の参加者（保育園、幼稚園、子育て支援センター職員、市町村職員等）に配付し、職場内での活用を依頼した。

保護者向けパンフレットについては、親子ふれあい体操教室に協力いただいた幼稚園及び保育園の保護者に配付したほか、運動指導者派遣事業（指導者向け講習会）に参加した方にも配付し、同じく職場内での活用を依頼した。

児童期では、わくわく先生派遣事業における運動遊び教室の様子を派遣校の先生方が参観する機会を設けた（わくわく先生派遣事業の詳細は後述）。参観した先生方からは、各種の運動遊びの行い方だけではなく、児童への声のかけ方や場の設定などにおいても参考になる知見が得られたとの意見をいただいた。

【幼児期に対するアプローチ】

(3)　運動指導者派遣事業（指導者向け講習会）の実施

幼児期では、「親子ふれあい体操教室」実施園の職員に対して講習会を実施したほか、県全域の幼稚園、保育園、子育て支援センター職員、その他幼児の育成に関わる人材から希望者を募って講習会を実施した。

＜親子ふれあい体操教室実施園向け＞

第１回：

日　時	令和６年 10 月 25 日（金）15：00 から 17：00
場　所	椿の御所幼稚園内
講　師	早稲田大学大学院　小石　浩一氏
参加者	椿の御所幼稚園職員（５名）
内　容	座学：親子ふれあい体操（パンフレット内の解説　等） 実技：親子ふれあい体操と身近な物で運動遊び
成　果	紹介した運動遊びについて、園内でも取り入れたい。 （翌週の遠足が雨天で中止となった際に、園内で行った。）

第２回：

日　時	令和６年 12 月 18 日（水）17：00 から 19：00
場　所	アスク川崎東口保育園内
講　師	川口短期大学講師　藤田　倫子氏
参加者	アスク川崎東口保育園職員（６名）
内　容	座学：「性」「生」という観点から、子どもの人権について考える 実技：親子ふれあい体操と体幹を鍛えるための運動
成　果	最近では転んだ際に手を出せない、また体幹が弱い児童が多く、体幹を意識した動きが学べて参考になった。

第３回：

日　時	令和７年１月 27 日（月）13：00 から 15：00
場　所	ふたば愛子園内
講　師	早稲田大学　教授　前橋　明氏、早稲田大学大学院　野村　卓哉氏
参加者	ふたば愛子園職員（７名）
内　容	座学：親子ふれあい体操（パンフレット内の解説　等） 実技：親子ふれあい体操と道具がなくても親子でできる運動あそび
成　果	園内でも実施可能な運動があり参考になった。

＜県全域対象＞

第１回：

日　時	令和６年 12 月９日（月）18：00 から 20：00
場　所	かながわ県民センター
講　師	早稲田大学　教授　前橋　明氏、早稲田大学大学院　野村　卓哉氏
参加者	13 名
内　容	座学：親子ふれあい体操「健康な子どもを育てるために私たちがすべきこと」 実技：親子ふれあい体操と道具がなくても親子でできる運動遊び
成　果	当日アンケートにて、「講習会の内容を活用したい。次回も参加したい。」とほぼ全員が回答。フォローアップアンケートにて、「乳児クラス、幼児クラスで活用し、楽しみながら汗をかいた。」等の報告あり。

第２回：

日　時	令和６年 12 月 16 日（月）18：00 から 20：00
場　所	あつぎ市民交流プラザ
講　師	早稲田大学　教授　前橋　明氏、早稲田大学大学院　野村　卓哉氏
参加者	29 名
内　容	座学：「子どもの運動と生活リズム」（外あそび・親子ふれあい体操のススメ） 実技：親子ふれあい体操と保護者が練習しなくても、その場でできるリズム体操
成　果	当日アンケートにて、「講習会の内容を活用したい。次回も参加したい。」とほぼ全員が回答。フォローアップアンケートにて、「体を動かす大切さとその効果、睡眠時間確保の大切さについて、園内で保育者同士の会話が活発になった。」との報告あり。

第３回：

日　時	令和７年１月 27 日（月）18：00 から 20：00
場　所	ひらしん平塚文化芸術ホール
講　師	早稲田大学　教授　前橋　明氏、早稲田大学大学院　野村　卓哉氏
参加者	16 名
内　容	座学：親子ふれあい体操「パンフレット内、乳幼児でも行える動きの解説　等」（参加者のリクエスト） 実技：親子ふれあい体操と道具がなくても親子でできる運動あそび
成　果	当日アンケートにて、「講習会の内容を活用したい。次回も参加したい。」とほぼ全員が回答。また、「座学で知識を得てから実技にうつれたことで、学びがより深まったと感じました。」との自由コメントあり。

【児童期に対するアプローチ】

(4)　わくわく先生派遣事業における運動遊び教室の保護者への公開

運動遊びの重要性に関する普及・啓発を図るため、各派遣校への実態に応じて、運動遊び教室の様子を保護者へ公開する機会を設けた（派遣回数全 18 回のうち７回で保護者への公開を実施）。

保護者に公開する運動遊び教室においては、家庭で取り組むことができる次のような運動遊びに取り組んだ。

ツイスト走		①脇を締めてつま先立ちをする。 ②10 秒間、上半身と下半身をひねるようにして繰り返し動かす。その際、踵は床につけず、つま先立ちの状態で行う。 ③10 秒間で上半身と下半身をひねることができた回数を記録する。
おとすな！		①仰向けの状態になって天井に向けて片足を上げ、帽子やハンカチなどを、つま先にかけるようにして置く。 ②つま先に置いた帽子やハンカチが落ちないようにして、仰向けの状態からうつ伏せになる。
反応ゲーム	 ※開脚や腕支持などの姿勢でゲームをすることも可能である。	①３人で行う。１人は合図を出す係、ゲームに参加する２人は両手を伸ばして触れ合うくらいの距離で向き合う。向き合った２人の間にマーカーなどの目標物を置く。 ②合図を出す人は「頭・肩・背中・つま先」などの体の部位を指定する合図を出す。ゲームに参加する２人は、合図に合わせて体の部位を触る。 ③合図を出す人は、体の部位を指定する合図を繰り返す途中で「ゴー！」と言う。ゲームに参加する２人は、「ゴー！」というかけ声でマーカーなどの目標物を取る。 ④目標物を早く取った人が勝ち。

加えて、「DOSA SCHOOL※1」を活用し、児童一人ひとりの新体力テストの測定結果及び人数・場所にあわせて運動能力を伸ばす「Ｍｙ遊び（楽しくできる遊び）」を保護者等のスマートフォンや専用サイトで閲覧できるようにした（三浦市立三崎小学校、三浦市立岬陽小学校で実施）。

▲個人結果表（紙印刷後に児童配布）

▲総合得点＆評価分布の分析画面

伸ばす能力に応じて運動遊びの一覧を出力
児童もわくわく先生と一緒に行った運動遊びを
確認可能

▲運動遊びの一覧画面

▲タブレットから児童が閲覧可能な個人結果表

※1「DOSA SCHOOL」…令和４・５年度、当県における本事業の一環として、運動遊び教室（わくわく先生派遣事業）の企画運営業務を担った「一般社団法人スポーツ能力発見協会」が提供する新体力テストのデータ集計分析システム。体力測定値のフィードバックに加え、児童一人ひとりの体力に応じた「Ｍｙ遊び（楽しくできる遊び）」や「向いているスポーツ」の閲覧が可能。

幼児及び小学校児童を対象とした「運動遊び」の提供

【幼児期及び児童期における協働事業】

(1)　年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず、幼児及び児童が一緒に取り組む運動遊びの機会の提供

幼児期の子ども達が就学後も円滑な運動習慣の形成ができるよう、幼児が小学校を訪れる幼小交流の機会を活用し、幼児及び児童が一緒に取り組む運動遊び教室を次のように実施した。

第１回　　日　時　　令和６年 10 月 30 日（水）　11：00 から 11：45
　　場　所　　三浦市立三崎小学校　体育館
　　参加者　　椿の御所幼稚園　　年長園児　　27 名
　　三浦市立三崎小学校　１・２年生　20 名

第２回　　日　時　　令和６年 12 月９日（月）　11：00 から 11：45
　　場　所　　三浦市立岬陽小学校　体育館
　　参加者　　椿の御所幼稚園　　年長園児　　27 名
　　三浦市立岬陽小学校　１年生　35 名

幼児と児童が一緒に取り組む運動遊び教室では、年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず、他者と共に体を動かす楽しさを味わうことに焦点を当てて、次のような運動遊びに取り組んだ。

大袈裟ジャンケン		①体全体を使って、グー・チョキ・パーを表現する仕方を考える。 ②自分が考えた表現の仕方で、体全体を使ってジャンケンをする。 ③ジャンケンに勝ったら大袈裟に喜ぶ。負けたら大袈裟に悲しむ。
真似っこバランス		①指導者の体の動きを真似るように、片足立ちをしてバランスを保ちながら様々なポーズをとる。 ②その後、幼児と児童でペアになり、互いの動きを真似ながら様々なポーズをとる。

信号ゲーム	 	①幼児と児童は一列に並ぶ。指導者は手を叩きながら「信号ゲーム、信号ゲーム、青（赤・黄色）」とかけ声をかける。 ②指導者が「青」と言ったら、幼児と児童は「青」と言いながら両足でジャンプをして前に１歩進む。同様に、「赤」の場合は両足でジャンプして一歩後ろへ戻る。「黄色」の場合はその場で両足ジャンプする。 ③「青・赤・黄色」の動きを繰り返す途中で、指導者は「信号ゲーム、信号ゲーム、黒」とかけ声をかける。「黒」と言われたら、指導者は鬼になる。幼児と児童は決められた箇所まで鬼にタッチをされないように走って逃げる。
とおせんぼ		①スタートとゴールのラインを決め、その間に指導者が鬼となって待機する。幼児と児童はスタートラインに一列に並ぶ。 ②幼児と児童は、鬼にタッチされないようにゴールラインを目指して走り出す。 ③活動に慣れてきたら、指導者だけではなく、代表の児童が鬼を務める。
ボール運びリレー	 ※頭の上や股の下でボールを手渡すなど、ボールの運び方にバリエーションを加えても楽しい。	①幼児と児童は５～８人を目安にグループを作り一列に並ぶ。その際、列の先頭には児童が並ぶ。 ②先頭の児童からボールをを落とさないように、自分の後ろにいる人にボールを手渡す。ボールを渡したら列の最後尾に並ぶ。 ③ボールを手渡したら列の最後尾に並ぶ動きを繰り返し、ゴールまでボールを運ぶ。 ④ボールを運ぶ速さではなく、ボールを落とさないように丁寧に渡すことを競い合う。

【幼児期に対するアプローチ】

(2)　親子ふれあい体操教室の実施

家庭における運動習慣形成のきっかけとなることを目的として、「いつでも」「どこでも」「楽しく」実践可能な「親子ふれあい体操」の教室を、県内３か所で開催した。

ア　三浦市

日　時　令和６年 11 月７日（木）
10:00～10:40（年長）、10:50～11:20（年少）、11:30～12:10（年中）
場　所　三浦市立三崎小学校　体育館
講　師　早稲田大学大学院　小石　浩一氏
川口短期大学講師　藤田　倫子氏
参加者　椿の御所幼稚園　園児及び保護者（計 55 組）、幼稚園教諭（８名）
※　当初２回の実施を予定していたが、ほぼ全数の園児が参加できたため、１回開催とした。

イ　川崎市

第１回
日　時　令和６年 12 月 21 日（土）
10:00～10:50（１～２歳児）、11:10～12:00（３～５歳児）
場　所　アスク川崎東口保育園
講　師　川口短期大学講師　藤田　倫子氏
参加者　アスク川崎東口保育園　園児及び保護者（計 24 組）、保育士（８名）

第２回
日　時　令和７年１月 25 日（土）
14:00～14:50（３～５歳児）、15:10～16:00（１～２歳児）
場　所　アスク川崎東口保育園
講　師　川口短期大学講師　藤田　倫子氏
参加者　アスク川崎東口保育園　園児及び保護者（計 20 組）、保育士（８名）

ウ　海老名市

第１回
日　時　令和７年２月１日（土）
9:50～10:35（3 歳児）、10:45～11:30（4 歳児）、11:40～12:25（5 歳児）
場　所　ビナスポ　大多目的室
講　師　川口短期大学講師　藤田　倫子氏

参加者　ふたば愛子園　園児及び保護者（計 31 組）、保育士（４名）

第２回

日　時　令和７年２月８日（土）

9:50～10:35（3 歳児）、10:45～11:30（4 歳児）、11:40～12:25（5 歳児）

場　所　ビナスポ　大多目的室

講　師　早稲田大学　教授　前橋　明氏、早稲田大学大学院　野村　卓哉氏

埼玉県立大学　五味　葉子氏

参加者　ふたば愛子園　園児及び保護者（計 32 組）、保育士（４名）

＜主な運動遊びの内容＞

足跳びまわり		①大人は足を伸ばして座る。 ②子どもはその足の上を両足踏切で跳び越えて、大人の背後を回って元に戻る。 ③大人は少しずつ足を開き、飛び越える難易度を上げていく。 ④上記②③を繰り返す。
跳び越しくぐり		①大人は足を伸ばして座る。 ②子どもは、その足の上を両足踏切で跳び越えた後、向きを変えて大人の浮かせた体の下をくぐり抜ける。 ③上記①②を繰り返す。
丸太たおし		①大人はあお向けに寝て、足を垂直に立て、両手は床面につけて、足が倒れないように支える。 ②子どもは、丸太に見立てた大人の両足を押したり引いたりして倒す。

ロボット歩き		①大人の足の甲に、子どもが乗り、大人と子どもが手をつないでいっしょに動く。 ②前方向や横方向、後ろ方向に移動する。
じゃんけん足ふみ		①向かい合って手をつなぐ。 ②じゃんけんをする。 ③手をつないだまま、じゃんけんで勝った方が負けた方の足を踏みに行く。 ④負けた方は、足を踏まれないように逃げる。

なお、事業に協力いただいた園に対し、日頃からの運動遊びの定着及び健康・体力つくりの促進を図ることを目的とし、それぞれ運動遊び用具を配備した。

【児童期に対するアプローチ】

(3)　みんなで遊ぼう！わくわく先生派遣事業

運動遊びの専門家（わくわく先生）を小学校に派遣し、休み時間及び体育の授業の時間における運動遊び教室を次のように実施した。

※わくわく先生…運動遊びを専門とする業者（一般社団法人スポーツ能力発見協会）と県教育委員会保健体育課及び県立総合教育センター体育指導センター指導主事によって構成される。

ア　実施例　中休み　10：20から10：40　運動遊び教室①の開催
　　３時間目　10：45から11：30　体育の授業における運動遊び教室①
　　４時間目　11：35から12：20　体育の授業における運動遊び教室②
　　昼休み　13：05から13：25　運動遊び教室②の開催

※詳細の時程については各学校の実態に応じて決定した。

イ　派遣校及び派遣日

①　鎌倉市立富士塚小学校（全校児童　222名）

令和６年10月７日（月）　中休み　参加者１年生　41名
　　３時時間目　参加者３年生　29名
　　４時時間目　参加者４年生　37名

	昼休み	参加者２年生	37名
令和６年11月18日（月）	中休み	参加者４年生	37名
	３時時間目	参加者２年生	約19名
	４時時間目	参加者２年生	約19名
	昼休み	参加者５年生	44名
令和６年11月25日（月）	中休み	参加者３年生	29名
	３時時間目	参加者１年生	約20名
	４時時間目	参加者１年生	約21名
	昼休み	参加者６年生	34名

② 鎌倉市立小坂小学校（全校児童　652名）

令和６年11月５日（火）	中休み	参加者２・３年生	約75名
	３時時間目	参加者１年生	約27名
	４時時間目	参加者１年生	約27名
	昼休み	参加者１・４年生	約75名
令和６年11月７日（木）	中休み	参加者５年生	約45名
	３時時間目	参加者１年生	約27名
	４時時間目	参加者１年生	約27名
	昼休み	参加者６年生	約60名
令和６年11月21日（木）	中休み	参加者２・３年生	約75名
	３時時間目	参加者２年生	約27名
	４時時間目	参加者２年生	約27名
	昼休み	参加者６年生	約60名
令和６年12月３日（火）	中休み	参加者２・３年生	約75名
	３時時間目	参加者２年生	約27名
	４時時間目	参加者２年生	約27名
	昼休み	参加者１・４年生	約75名
令和６年12月10日（火）	中休み	参加者２・３年生	約75名
	３時時間目	参加者１年生	約27名
	４時時間目	参加者１年生	約27名
	昼休み	参加者１・４年生	約75名

③ 三浦市立三崎小学校（全校児童　92名）

※三崎小学校における中休み及び昼休みの運動遊び教室は、対象学年の指定をせず、運動遊び教室への参加を希望する児童を対象に実施した。

令和６年10月31日（木）	中休み	参加者	約10名
	３時時間目	参加者５・６年生	38名

	４時時間目	参加者５・６年生	38名
	昼休み	参加者	約10名
令和６年11月11日（月）	中休み	参加者	約10名
	３時時間目	参加者１・２年生	20名
	４時時間目	参加者１・２年生	20名
	昼休み	参加者	約10名
令和６年11月28日（木）	中休み	参加者	約10名
	３時時間目	参加者３年生	22名
	４時時間目	参加者３年生	22名
	昼休み	参加者	約10名
令和６年12月２日（月）	中休み	参加者	約10名
	３時時間目	参加者４年生	12名
	４時時間目	参加者４年生	12名
	昼休み	参加者	約10名

④　三浦市立岬陽小学校（全校児童　168名）

令和６年11月12日（火）	中休み	参加者４・５・６年生	約50名
	３時時間目	参加者１年生	36名
	４時時間目	参加者５年生	25名
	昼休み	参加者１・２・３年生	約 50 名
令和６年11月19日（火）	中休み	参加者４・５・６年生	約50名
	３時時間目	参加者１年生	36名
	４時時間目	参加者５年生	25名
	昼休み	参加者１・２・３年生	約 50 名
令和６年11月29日（金）	中休み	参加者４・５・６年生	約50名
	３時時間目	参加者３年生	26名
	４時時間目	参加者４年生	28名
	昼休み	参加者１・２・３年生	約 50 名
令和６年12月６日（金）	中休み	参加者４・５・６年生	約50名
	３時時間目	参加者６年生	19名
	４時時間目	参加者２年生	34名
	昼休み	参加者１・２・３年生	約 50 名

児童の運動機会を確保するとともに、運動習慣の定着を目指し、次のような運動遊びに取り組んだ。

お山とおわん		①お山とおわんの２つのチームに分かれる。 ②マーカーを上向き（お山）と下向き（おわん）に、同じ数だけバラバラにして置く。 ③指導者の合図で、自分のチームの向き（お山・おわん）にマーカーをひっくり返す。 ④30 秒経過して、マーカーの向き（お山・おわん）の数が多いチームが勝ち。
２人でランアウェイ		①二人一組で手をつなぐ。鬼を一組決める。 ②二人一組で手をつないだまま、鬼に捕まらないように逃げる。鬼も手をつないだまま追いかける。 ③タッチされた人も鬼になって追いかける。最後まで鬼に捕まらなかった人の勝ち。
姫鬼		①５人程度のグループになり、鬼と姫を１人ずつ決める。 ②鬼以外の人は、外側を向いて手をつないで円になる。鬼は、円の周りを回って、姫をタッチする。 ②鬼以外の人は手をつないだまま、右回り・左回りをして、姫が鬼にタッチされないように逃げる。
色決め鬼	 ※色の数を増やしたり、ゲームに参加する人数を各色２人にしたりしても面白い。	①四色（例：赤・青・黄・オレンジ）に分かれてチームをつくり、長方形の頂点から対角線を延長するようにして一列に並ぶ。 ②各列の先頭の人がゲームに参加する。指導者は色を指定して鬼を決め、ゲームの開始を伝える（例：「赤が鬼、スタート」）。 ③鬼になった人は、長方形の内側の範囲で、その他三色の色の人をタッチする。鬼ではない人は、タッチされないように逃げる。 ④20 秒間で鬼がタッチした人数が、そのチームの得点となる。

ボールでだるまさんがころんだ		①ゲームに参加する人は一列に並ぶ。指導者はボールを手に持って列から離れて立つ。 ②指導者はボールを投げたり、床にバウンドさせたりしながら、ボールから手を放す。指導者がボールから手を放している間は、児童は前に走り込むことができる。 ③指導者がボールを手に持った瞬間、「だるまさんがころんだ」の要領で、動くのをやめてその場に止まる。 ④決められた場所まで走り込んだら勝ち。指導者がボール手にした瞬間に動いてしまったら、スタートからやり直し。
手つなぎリレー		①ジグザグに走るためのカラーコーン（４本)、両足ジャンプで移動するためのケンステップ（４つ)、手をつないだまま拾って置くための玉入れの玉（４個）とマーカー（４つ）を用意してコースを作る。 ②二人一組で手をつないで障害物競走の要領でリレーをする。 ③速さを競うのではなく、手をつないだまま他者と一緒に体を動かすことを意識して取り組ませる。
３・２・１　ポン		①二人一組で背中をくっつけた状態で、手拍子を繰り返す。 ②指導者の「３・２・１　ポン」の合図で、その場でジャンプをして二人で向き合う。同時に、自分の「頭・肩・膝・つま先」のうち、どこか一カ所を両手で触る。 ③二人が触った箇所が揃ったら全力で喜ぶ。
２人でハイタッチ		①二人一組で片手を挙手するように上げ、手のひらを触れ合うようにして横に並ぶ。 ②指導者の「せーの」という合図で、その場に高くジャンプをする。同時に、大きな音が鳴るように思いっきり相手の手のひらを叩く。

コロコロドッジボール		①長方形の外辺に沿うようにして、４人の外野を配置する。それ以外の人は内野となって、長方形のコートの中に入る。 ②外野にいる人は、ボールを転がして内野の人を当てる。内野の人はボールを捕ることはせず、転がるボールを避け続ける。 ③慣れてきたら、ボールの数を増やしてゲームをする。
コーンドッジボール		①自チームのコートの中央に、カラーコーンを４本程度置いて、全員が内野からゲームをスタートさせる。外野は設けない。 ②先に相手コートに置いてあるカラーコーンを倒したチームが勝ち。 ③ボールに当たった人はコートの外に出るが、ボールに当たった人数は勝敗に関係ない。 ④慣れてきたら、カラーコーンをどこに置くかチームで話し合ってからゲームをする。

なお、各派遣校に対し、わくわく先生派遣時に加え、日頃からの運動遊びの定着及び健康・体力つくりの促進を図ることを目的とし、次の体力測定器、運動遊び用具を配備した。

【配備した体力測定器・運動遊び用具】

デジタル握力計２台、ストップウォッチ２個、屋内スポーツリバーシ２、電子ホイッスル２個

また、当初の計画では、神奈川県企業等による教育プログラム提供事業を活用した運動遊び教室も実施する予定であったが、派遣校との調整が間に合わず、実施することができなかった。

４．事業の成果

(1)　評価指標および目標

幼児期及びその結果としての児童期の運動習慣の定着化と保護者の運動に対する行動変容

(2)　結果と考察

【幼児期】

「親子ふれあい体操教室（以下体操教室という。)」に参加する保護者を対象としたアンケートを実施し、体操教室実施前後（実施日・実施から２週間～１か月後）の子どもや保護者の意識や活動量等の変化を調べた。また、効果検証を行う際の比較対象群として、体操教室に参加していない保育園（１園）に協力を依頼し、園に通う児の保護者に対し、２週間以上の間を設けて２回のアンケートを行った。

《アンケート方法》

県が直接アンケート用紙を作成し、配布にあたっては、体操教室実施園については県が直接、非実施園については園経由でアンケート用紙を配付した。

回収方法については園と相談のうえ、保護者から県に直接提出または園を経由しての回収とした。

（体操教室実施園）

○　回答期間　　事前　各親子ふれあい体操教室実施当日
　　事後　各親子ふれあい体操教室実施日から２週間後～１か月後
　　（最終回のみ令和６年２月 17 日（月）〆切）

○　回答方法　　配付した紙媒体のアンケート用紙を県または園に提出

○　回答数(※)　事前 n=124
　　事後 n=43

（体操教室非実施園）

○　回答期間　　事前　令和７年１月 16 日以降
　　事後　令和７年２月 12 日まで

○　回答方法　　配付した紙媒体のアンケート用紙を園に提出

○　回答数(※)　事前 n=40
　　事後 n=34

※　各質問項目により有効回答数は異なる。

《アンケート結果》

○　保護者への意識変容調査　実施園と非実施園との比較

調査項目	体操教室実施幼稚園	体操教室非実施幼稚園
「子供が活発に体を動かして遊ぶ機会が少ない」と答えていた保護者のうち、「子供が以前より活発に体を動かして遊ぶようになった」と回答する割合	70.0% （n＝20）	23.1% （n＝13）
「子供が体を動かして1日60分以上遊ぶようになった（又は既に1日60分以上遊んでいる）」と回答する割合	73.2% （n＝41）	66.7% （n＝27）
「子供の不活動時間（スクリーンタイム等）が減少した」又は「子供の不活動時間を減らすことを意識するようになった（又は既に意識している）」と回答する割合	86.0% （n＝41）	75.0% （n＝27）
「子どもの睡眠や食事などの生活習慣の改善を意識するようになった（又は既に意識している）」と回答する割合	95.1% （n＝41）	92.9% （n＝28）
「子どもと体を動かして一緒に遊ぶようになった」と回答する割合	95.1% （n＝41）	67.9% （n＝28）
「保護者自身のスクリーンタイム減少を意識するようになった（又は既に意識している）」と回答する割合	78.0% （n＝41）	64.3% （n＝28）
「子どもの運動遊び習慣化の働きかけを意識するようになった（又は既に意識している）」と回答する割合	95.1% （n＝41）	64.3% （n＝28）

全ての項目において、「親子ふれあい体操教室」実施園が非実施園を上回る結果となっている。

○　行動変容（運動時間の変化）の比較

調査項目	体操教室実施幼稚園	体操教室非実施幼稚園
調査前後で運動時間が増加した子どもの割合	40.0% （n＝35）	30.8% （n＝13）

「親子ふれあい体操教室」実施園のほうが、非実施園よりも運動時間が増加した子どもの割合が高かった。

《考察》

「親子ふれあい体操教室」実施園と非実施園のアンケート結果を比較すると、運動遊びの場を通じた保護者の意識変容に成功したことが確認できる。

特に、実施園における『「子供が活発に体を動かして遊ぶ機会が少ない」と答えていた保護者のうち、「子供が以前より活発に体を動かして遊ぶようになった」と回答する割合』が顕著に高い値となっている。運動遊びの場の提供が子どもに与えた影響も大きいものと推察する。

実施園では『「子どもの運動遊び習慣化の働きかけを意識するようになった（又は既に意識している）」と回答する割合』も高い結果となっており、保護者の運動遊びに対する意識の高まりが確認できる。

しかしながら、実際の運動時間を尋ねてみたところ、調査前後で運動時間が増加した子どもの割合その割合は４割と、意識変容よりも低い値に留まっている。

意識変容に加えて更なる行動変容に繋がるような運動遊びの場の提供を継続的に行っていくことが必要と考える。

【児童期】

みんなで遊ぼう！わくわく先生派遣事業の実施校の児童及び保護者を対象にして、事業を実施する前後でアンケート調査を実施した。

ア　児童に対するアンケート

○　回答期間　　事前　令和６年９月 16 日（月）～
各実施校における運動遊び教室初回の実施前日

事後　各実施校における運動遊び教室最終実施日～
令和６年 12 月 24 日（火）

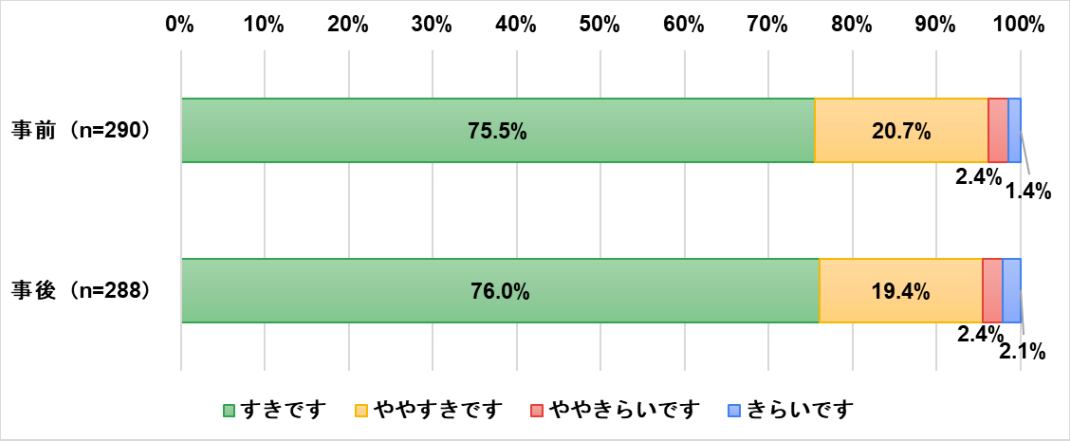
○　回答方法　　２次元コードを活用した質問フォームへのアクセス

○　回答数　　事前 n=590　（低学年 n=290、中・高学年 n=300）
事後 n=570　（低学年 n=288、中・高学年 n=282）

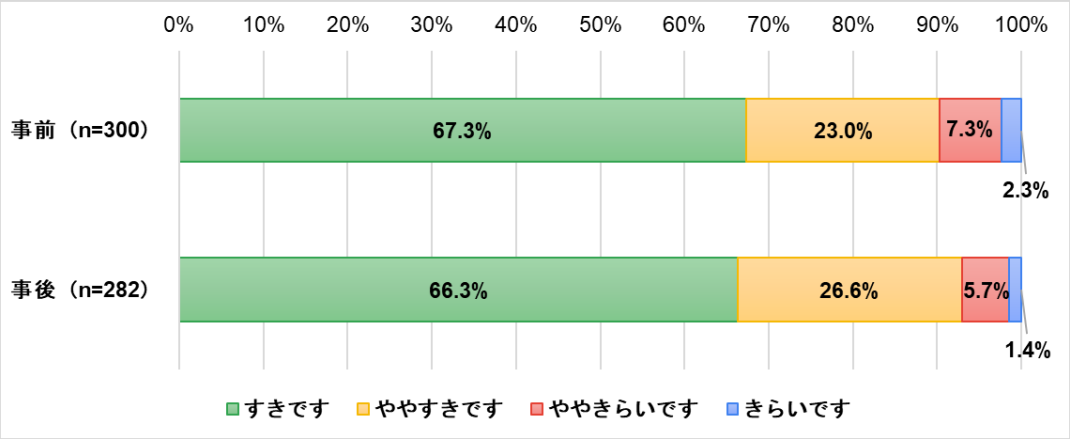
○　結果

(ｱ) あなたは、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。

＜低学年＞



＜中・高学年＞

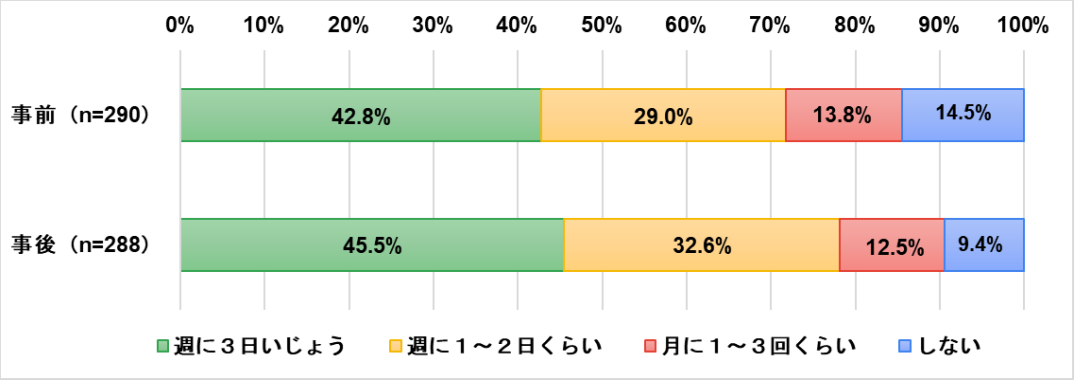


※　構成比は小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない（以降のグラフも同様）。

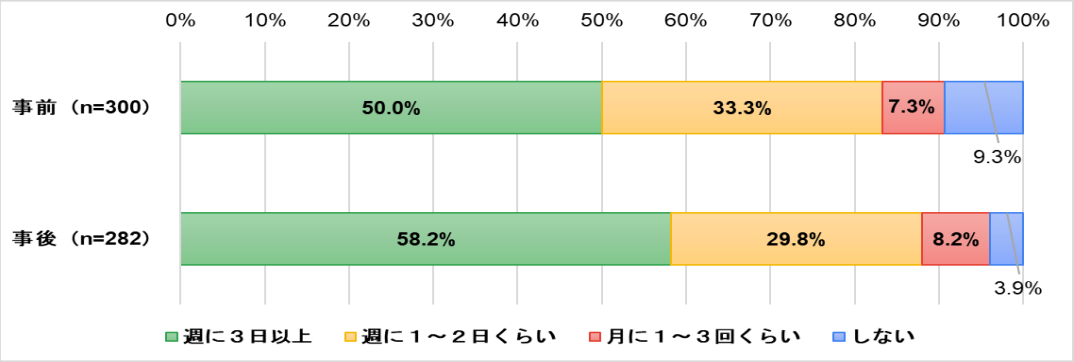
「あなたは、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」という質問に対して、「好き」「やや好き」と回答した児童の割合は、事前と事後で比較すると、低学年において 0.8 ポイント減少（事前 96.2%→事後 95.4%）、中・高学年において 2.6 ポイント（事前 90.3%→事後 92.9%）上昇した。

(ｲ) あなたは、学校の体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをどのくらいしていますか。

＜低学年＞



＜中・高学年＞

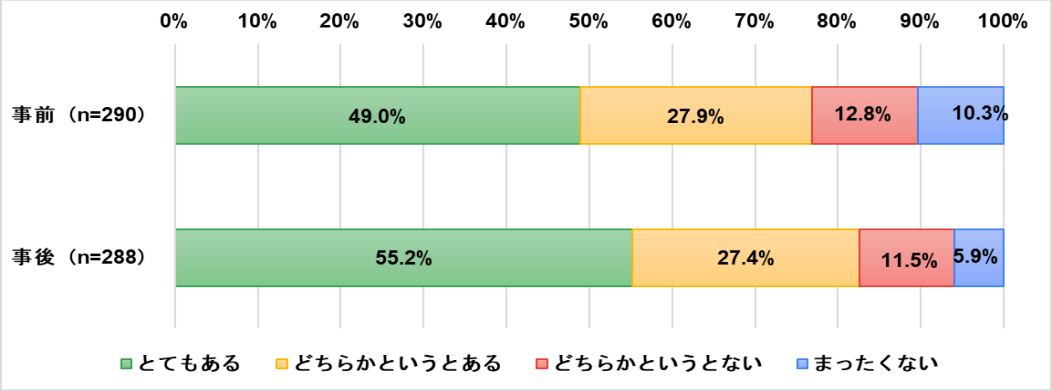


「あなたは、学校の体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをどのくらいしていますか。」という質問に対して、「週に３日以上」「週に１～２日くらい」と回答した児童の割合は、事前と事後で比較すると、低学年において 6.3 ポイント（事前 71.8%→事後 78.1%）、中・高学年において 4.7 ポイント（事前 83.3%→事後 88.0%）上昇した。また、「しない」と回答した児童の割合は、低学年では 5.1 ポイント（事前 14.5%→事後 9.4%）、中・高学年では 5.4 ポイント（事前 9.3%→事後 3.9%）低下した。

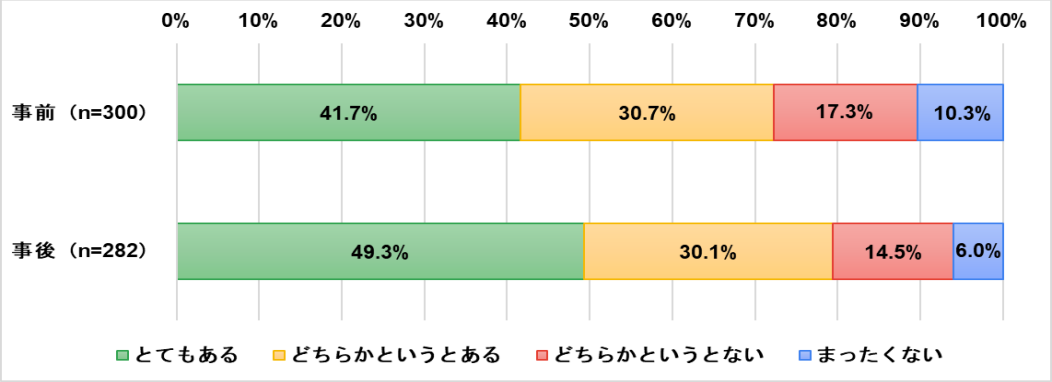
(ｳ) あなたは、学校での休み時間に、校庭や体育館で体を動かして遊ぶこと

がどの程度ありますか。

＜低学年＞



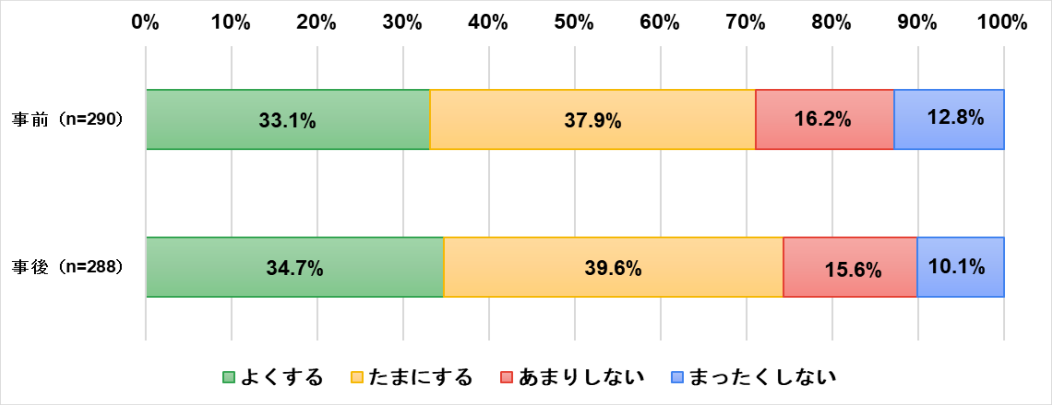
＜中・高学年＞



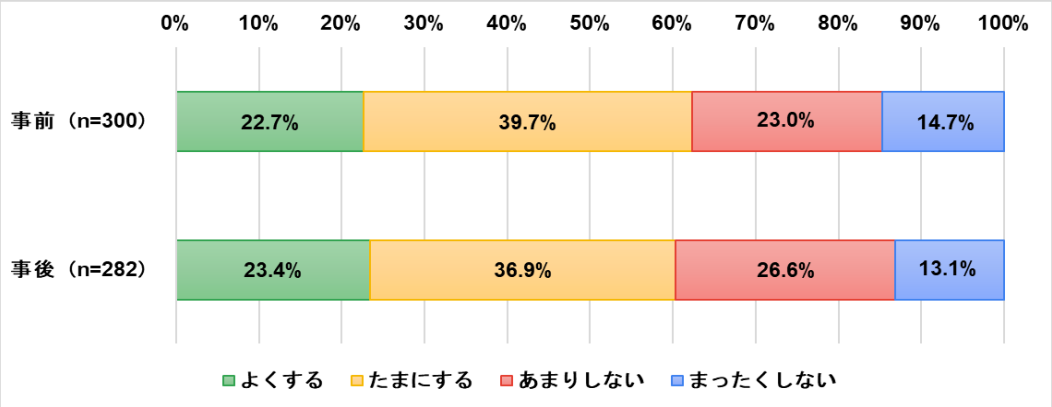
「あなたは、学校での休み時間に、校庭や体育館で体を動かして遊ぶことがどの程度ありますか。」という質問に対して、「とてもある」「どちらかというとある」と回答した児童の割合は、事前と事後で比較すると、低学年において 5.7 ポイント（事前 76.9%→事後 82.6%）、中・高学年において 7.0 ポイント（事前 72.4%→事後 79.4%）上昇した。また、「まったくない」と回答した児童の割合は、低学年では 4.4 ポイント（事前 10.3%→事後 5.9%）、中・高学年では 4.3 ポイント（事前 10.3%→事後 6.0%）低下した。

(ｴ) あなたは、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを、おうちの人とどれくらいしていますか。

＜低学年＞



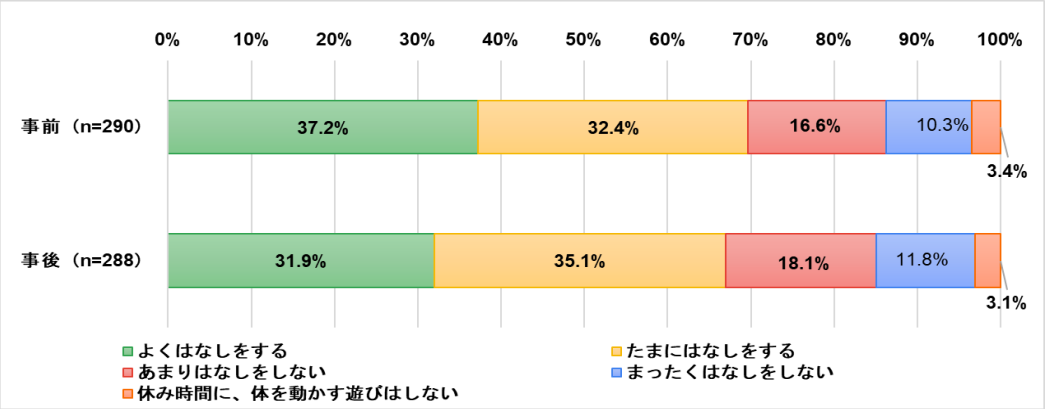
＜中・高学年＞



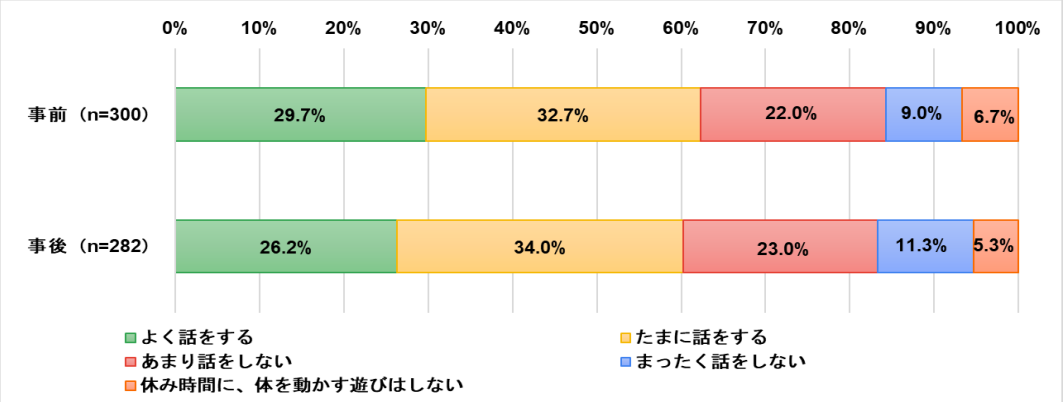
「あなたは、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを、おうちの人とどれくらいしていますか。」という質問に対して、「まったくしない」と回答した児童の割合は、事前と事後で比較すると、低学年におい 2.7 ポイント（事前 12.8%→事後 10.1%）、中・高学年において 1.6 ポイント（事前 14.7%→事後 13.1%）減少した。

(ｵ) あなたは、学校の休み時間に遊んだ、体を動かす遊びについて、おうちの人と話をすることがどれくらいありますか。

＜低学年＞



＜中・高学年＞



「あなたは、学校の休み時間に遊んだ、体を動かす遊びについて、おうちの人と話をすることがどれくらいありますか。」という質問に対して、「よく話をする」「たまに話をする」と回答した児童の割合は、事前と事後で比較すると、低学年において 2.6 ポイント（事前 69.6%→事後 67.0%）、中・高学年において 2.2 ポイント（事前 62.4%→事後 60.2%）減少した。

イ　保護者に対するアンケート

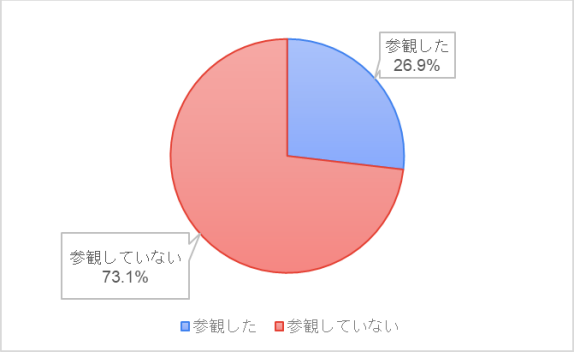
○　回答期間　事前　令和６年９月 13 日（金）～令和６年９月 27 日（金）
　　事後　各派遣校における運動遊び教室最終実施日～
　　令和６年 12 月 20 日（金）

○　回答方法　２次元コードを活用した質問フォームへのアクセス

○　回答数　　事前 n=210　　事後 n=108

○　結果

(ｱ) 各学校において実施された、わくわく先生による「運動遊び教室」を参観しましたか。（事後アンケートのみで実施した質問項目）（事後 n=108）



「各学校において実施された、わくわく先生による「運動遊び教室」を参観しましたか。」という質問に対して、「参観した」と回答した保護者の割合は 26.9%、「参観していない」と回答した保護者の割合は 73.1%であった。

「参観した」と回答した保護者に自由記述で、運動遊び教室に対する感想を求めたところ、「遊びの中で、色々と考えながら体を動かす活動がとても魅力的でした。子どもたち、わくわく先生、学校の先生方、皆さんが楽しそうで、見ているこちらも楽しかったです。今後もスポーツを楽しみながら続けていってもらえるといいなと思います。」「子どもたちは楽しそうに身体を動かしていました。また、頭も使うような内容でとても良いと思います」等の回答が得られた。

【自由記述による回答】

○楽しく走っている姿が多く見られた。

○子供達がとても楽しそうに運動している姿がとても可愛かったです。またこういった機会があるといいなと思いました。

○祖父母が良く公園で遊んでくれるが、大きい子達と遊ぶのにとても参考になった。

○気がつかないうちに子供達は走らされていて、でも楽しいので疲れを感じていないかも。皆んなで協力すると言うことを学べていた。

○わくわく先生の話しをよく聞いて、ルールもしっかり守りとても楽しそうな体育の時間を過ごしていた。

○楽しみながら身体を動かしていて　とても良かったです。

○子どもたちが楽しそうに体を動かしていて良かったと思います。

○遊びを通して楽しみながら、体をたくさん動かしていた１時間でし

た。友達との関わりも多く、運動の面でも仲間作りや学級作りの面でも魅力的な活動だなと思いました。

〇子供達が楽しそうなキラキラした顔をしていたのが印象的でした。

〇身体を動かすにはまず楽しいと思うことが重要だと、本当にその通りだと思います。子供たち全員が楽しく運動していて、1時間があっという間でした。

〇都合がつかず参観はしていませんが、わくわく先生の日は前日から子供が楽しみにしており、帰宅してからもこんな事をしたよと楽しそうにお話してくれました。トライアルの企画かとは思いますが、気候のいい季節にまた実施していただける事を希望いたします。

〇信号のゲームがとても楽しそうでした。何色か聞いた時にすぐ、色ごとの決められた動きをするので、頭、耳、体全部を使う良い運動だと思いました。

〇子どもが飽きないようテンポ良く進められていて、すごいなと思いました。

〇工夫された活動を先生方が楽しそうに取り組んでくださり、子どもたちもとても楽しそうでした。

〇子どもたちは楽しいそうに身体を動かしていました。また、頭も使うような内容でとても良いと思います

〇こどもたちがとても楽しそうでした。担任の先生がこのようなプログラムを体育や中休みに実施してくださるとこどもたちの体力向上につながると思いました。ぜひ継続して実施していただけたらと思います。

〇とても楽しそうに身体を動かしていて良かったです！

〇速く走るコツを毎朝話して実践してから登校してます。授業参観より作り込まれていなく、普段の姿が見れて良かったです。

〇子ども達がとても楽しそうでした。アイディア次第で、なんでも遊びや体を動かすことにつながるなと感じました。

〇子どもたちが楽しめるプログラムを作ってくださり、子どもたちは楽しんで取り組んでる様子を見ることができました。

〇子どもたちが楽しめるように、少しだけルールを工夫したりしていておもしろいなぁと思いました。親自身が運動が苦手だと、なかなか身体を動かすことの大切さや楽しさを共有することができないので…このような機会はとてもありがたいなと思いました。

〇ルールを守りながら、身体全体を使って運動する姿がとても楽しそうだった。

〇子供たちが先生と楽しく運動する事が見れて良かったです。

○楽しくルールを守ることの大切さ、動きの中で自分で考えゴールを目指す想像力を育むことのできる時間でした。子供達は皆楽しそうで、どうしたら逃げ切れるかを考える表情がイキイキしていました。実際、我が子も帰宅後楽しかった！と喜んでいました。

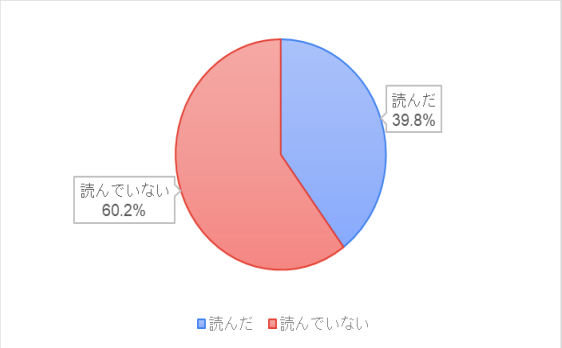
○遊びの中で、色々と考えながら体を動かす活動がとても魅力的でした。子どもたち、わくわく先生、学校の先生方、皆さんが楽しそうで、見ているこちらも楽しかったです。今後もスポーツを楽しみながら続けていってもらえるといいなと思います。

○子どもたちの興味をそそる工夫をしていて楽しそうでした。ただ身体を動かすだけでなく、頭も使いながら、というのがポイントなのだと思いました。

○毎日身体を動かす習慣がある方が発達に良いとされているので、有難いと思いました。

○とても楽しそうな運動遊びだったので家でもやりたいと思いました。

(ｲ) わくわく先生による「運動遊び通信(運動遊びブック・スポーツクロスワード)」をお読みなりましたか。(事後アンケートのみで実施した質問項目)(事後 n=108)



「わくわく先生による「運動遊び通信(運動遊びブック・スポーツクロスワード)」をお読みなりましたか。」という質問に対して、「読んだ」と回答した保護者の割合は 39.8%、「読んでいない」と回答した保護者の割合は 60.2%であった。

「読んだ」と回答した保護者に自由記述で、運動遊び通信に対する感想を求めたところ、「楽しく身体を動かせ、子供も家で何をしたか実践しながら教えてくれました。遊び感覚で身体を使え、とても良いと思います。」「親子で楽しめる活動のアイディアをもらうことができたと思います。」等の回答が得られた。

【自由記述による回答】

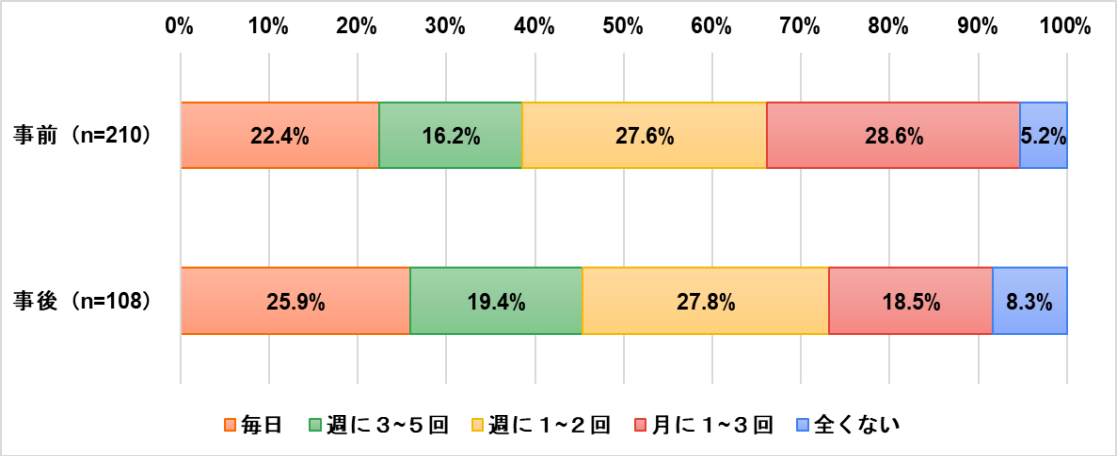
○色々な遊びがあると思った。

○楽しく身体を動かせ、子供も家で何をしたか実践しながら教えてくれました。遊び感覚で身体を使え、とても良いと思います。

○子どもと学校でどんな遊びをしたのか話しながら読みました。実際に冊子を見ながら子どもと一緒に遊んで楽しかったです。

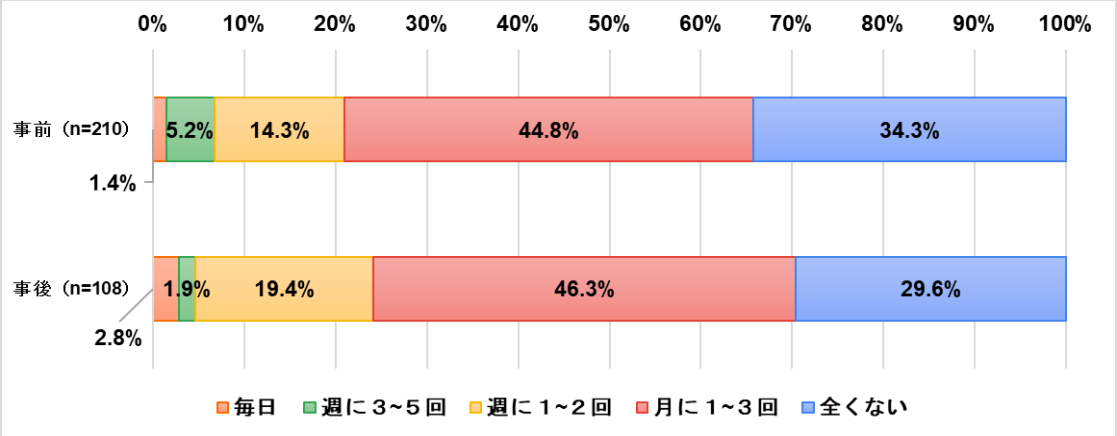
○競技の生まれた国が載っていて面白かったです。
○懐かしい遊びがあり、子供とコミュニケーションが取りやすいと感じた。体を動かす工夫について参考になりました。
○子供が色々なスポーツを知るきっかけになるなと感じました。
○楽しそうで、すぐに取り入れられそうだと思いました。
○子どもたちが知らないスポーツについて話すいい機会になりました。様々なスポーツを体験してほしいなと思います。体を動かすことが好きなまま成長してほしいです！
○できたら楽しそうと思います。
○親子で楽しめる活動のアイディアをもらうことができたと思います。
○子どもと身体を動かす遊びをしようとしても何をすればいいのかわからない…と固まってしまう親御さんは多いと思います。私もそのひとりです。遊び方がわかれば上手にできなくても楽しむことなら一緒にできると思うので、助かるなぁと思いました。
○子供がまだ知らないスポーツもあったので、勉強になりました。
○1 年生にはまだ難しい内容でしたが、親子でこういうスポーツがあるんだねと話せるきっかけになりました。
○息子が嬉しそうに渡してくれました、家庭でもつながるアイテム？としてプリント一枚でもあるのはとても良いなと思いました
○興味深かった。
○運動遊びブックは、遊んだことのない遊びがたくさん載っていて、学校の休み時間や体育の時間などにみんなで遊べたら楽しそうだなと思いました。スポーツクロスワードは、様々なスポーツが紹介されており、知っていると思っていた競技でも、読んでみると知らなかったことがたくさん載っていて、とても勉強になりました。
○子どもにはたくさんのスポーツに触れてもらって、自分の興味のある分野を見つけて欲しいなと思いました。
○親が知らない遊びについて、子どもが教えてくれて、会話が広まりました。
○子供たちの遊びの参考になりました。親子で出来る運動もあるともっと良いです。

(ｳ) 普段、あなたは、お子様が学校の休み時間に、どのような体を動かす遊びをしているかについて、お子様と話をする機会がどれくらいありますか。



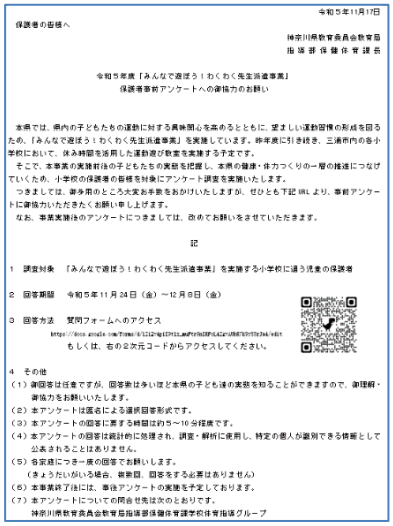
「普段、あなたは、お子様が学校の休み時間に、どのような体を動かす遊びをしているかについて、お子様と話をする機会がどれくらいありますか。」という質問に対して、「毎日」「週に３～５回」と回答した保護者の割合は、事前と事後で比較すると 6.7 ポイント（事前 38.6%→事後 45.3%）増加した。

(ｴ) 普段、あなたは、お子様と一緒に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをどのくらいしますか。



「普段、あなたは、お子様と一緒に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをどのくらいしますか。」という質問に対して、「全くない」と回答した保護者の割合は、事前と事後で比較すると 4.7 ポイント（事前 34.3%→事後 29.6%）減少した。

（児童向け　アンケート周知用紙）



令和５年11月17日

保護者の皆様へ

神奈川県教育委員会教育局
指導部保健体育課長

令和５年度「みんなで遊ぼう！わくわく先生派遣事業」
保護者事前アンケートへの御協力のお願い

本県では、県内の子どもたちの運動に対する興味関心を高めるとともに、望ましい運動習慣の形成を図るため、「みんなで遊ぼう！わくわく先生派遣事業」を実施しています。昨年度に引き続き、三浦市内の各小学校において、休み時間を活用した運動遊び教室を実施する予定です。

そこで、本事業の実施状況の子どもたちの実態を把握し、本県の健康・体力つくりの一層の推進につなげていくため、小学校の保護者の皆様を対象にアンケート調査を実施いたします。

つきましては、御多用のところ大変お手数をおかけいたしますが、せひとも下記URLより、事前アンケートに御協力いただきたくお願い申し上げます。

なお、事業実施後のアンケートにつきましては、改めてお願いをさせていただきます。

記

１　調査対象　「みんなで遊ぼう！わくわく先生派遣事業」を実施する小学校に通う児童の保護者

２　回答期間　令和５年11月24日（金）～12月８日（金）

３　回答方法　質問フォームへのアクセス
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfYiLmwPrfHcDDFqL4Zrv0R6YbYrTfbJ9dJvWlt
もしくは、右の２次元コードからアクセスしてください。

４　その他
（１）御回答は任意ですが、回答数は多いほど本県の子ども達の実態を知ることができますので、御理解・御協力をお願いいたします。
（２）本アンケートは匿名による選択回答形式です。
（３）本アンケートの回答に要する時間は約５～10分程度です。
（４）本アンケートの回答は統計的に処理され、調査・解析に使用し、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。
（５）各設問につき一項の回答でお願いします。
（きょうだいがいる場合、複数回、回答をする必要はありません）
（６）本事業終了後には、事後アンケートの実施を予定しております。
（７）本アンケートについての問合せ先は次のとおりです。
神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課学校体育指導グループ

（保護者向け　アンケート周知用紙）

ウ　考察

本事業における令和５年度の児童期の取組の成果と課題として、子どもの運動遊びの意義や生活習慣の改善に対する保護者の意識を高めることはできたものの、具体的な行動の変容は見られなかった。そこで今年度は、「子どもが変わると大人も変わる」という視点を重視して、保護者の行動を変容させることをねらい、取組を進めた。

児童に対する事前・事後アンケートの結果を比較すると、学校の体育の授業以外で運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをしたり、学校での休み時間に校庭や体育館で体を動かして遊んだりする、所謂、児童の身体活動の時間が増えていること、中・高学年の児童においては運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツへの好意的な回答の割合が増加していることが分かる。このことにより、運動遊び教室の実施と運動遊び通信の配付を通して、身体活動をはじめとした児童の変容という点では一定の成果を得ることができたと考える。

そして、児童を対象にしたアンケートでは、保護者と共に身体活動に取り組む頻度を問う質問においても、事前と事後で数値の向上が見られている。保護者を対象にしたアンケートでの類似した質問においても同様の傾向が見られることから、児童の変容を通して保護者の行動も変容させることができたのではないかと考える。

特に、保護者を対象にしたアンケートでは、学校での休み時間における身体活動について、子どもと話をする機会を問う質問では、「毎日」「週に３～５回」と回答した保護者の割合が事前と事後で比較すると 6.7 ポイント（事前 38.6%→事後 45.3%）増加し、保護者の行動の変容が見られた。

今年度からの新たな取組として、各派遣校の実態に応じて、運動遊び教室の様

子を保護者へ公開する機会を設けている。保護者に公開する運動遊び教室においては、家庭で取り組むことができる運動遊びを数多く児童に紹介した。幼児期とは異なり、保護者と児童が一緒に体を動かす機会を小学校のカリキュラムに位置付けて設定することは難しいと推察する。しかしながら、家庭で取り組むことができる運動遊びを紹介する共に、児童の運動遊び教室の様子を保護者が参観する機会を設けることであるならば、小学校の負担も少なく実施ができると考える。また、各派遣校の実態に応じて、学校通信や学年便りなどで、運動遊び教室の様子を保護者へ伝えていただいたことも、保護者の行動の変容につながる一助になったと考える。

一方で、児童を対象にしたアンケートでの類似した質問では、数値の向上はみられなかった。このことは「あなたは、学校の休み時間に遊んだ、体を動かす遊びについて、おうちの人と話をすることがどれくらいありますか。」という設問に課題があったと考える。運動遊び教室は、学校の休み時間に加えて３・４時間目の体育の授業においても実施をしている。そのため、「学校の休み時間や３・４時間目の体育の授業における運動遊びで遊んだ、体を動かす遊びについて、おうちの人と話をすることがどれくらいありますか。」などの設問が適切であったと振り返る。

５．３年間の事業を通じての成果と今後の課題

県スポーツ課と県教育委員会保健体育課が連携・協働し、運動遊びの重要性に関する普及・啓発、運動遊びの提供に取り組んだ。

幼児期においては、運動遊びの場の提供や、講習会の開始を通じて、その重要性を保護者や保育者に啓発し、保護者の意識変容や、児の運動時間増加に繋げることができた。しかし、意識変容率に比較して運動時間増加率が低いといった課題や、県が実施できる運動遊びの場の提供は、地域が限られてしまうという課題があると考える。

児童期においては、身体活動をはじめとした児童の変容を通して、児童と共に身体活動に取り組んだり、学校での休み時間における身体活動について話をしたりするなどの保護者の行動を変容させることができたと考える。

神奈川県においては、令和４年度から令和６年度まで「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（幼児期からの運動遊び普及事業）」の採択を受け、県スポーツ課と県教育委員会保健体育課が連携・協働して標記事業に取り組んできた。次年度以降はこれまでに培ってきた知見をもとに、幼児期・児童期における健康・体力つくり事業に取り組んでいく。

６．今後の取組予定

○　個別の幼稚園や保育園を対象とした運動遊びの場の提供における課題であった「波及人数の少なさ」を解決するため、次年度以降は、県全域を対象とした保育者等に対する講習会事業を継続して実施することにより、広く運動遊びの重要性を啓発し、保育や教育の場といった、幼児の日常シーンにおける運動遊びの提供を推進していく。

○　３年間の取組で得た知見をもとに、運動遊びの種類や、仲間との関わり方、安全面での注意事項等、児童が楽しく遊ぶための知識や態度等を身につけることによって、児童の運動習慣がどのように変容するのかなどについて、県内の小・中・高の教員、指導主事から構成される健康・体力つくり推進委員会等にて報告をする。また、健康・体力つくりの取組を推進するモデル小学校を神奈川県内に４校設定し、運動遊び教室の開催及び体力つくりに関する保護者への情報提供等を行う。その成果についても、健康・体力つくり推進委員会等にて報告をする。